

令和元年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

令和2年3月25日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	新山順子
研究課題	現代舞踊による交流と研鑽の質を高める地域実践モデルの構築					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	新山順子	岡山県立大学・准教授	舞踊教育学	実践・研究総括	
	分担者	岡本悦子	就実大学・教授	舞踊芸術学	実践協力・研究評価	
研究実績の概要	<p>研究の概要</p> <p>筆者らは、2016年より、特に現代舞踊(＝創造的なダンスは、舞台芸術の領域では現代舞踊と呼ばれる)に着目して、生涯学習的視点による創作活動の継続の課題と支援に関する研究に着手した。これまでの実践により、舞踊公演が社会人の創作活動継続者にとって意義があることは事後評価等により、明らかになった。しかし、現代舞踊の地域への浸透は未だ途上であり、交流と研鑽の質を向上させる地域連携のあり方等をさらに模索しながら実践を進めていく必要があると考えられた。</p> <p>2019年度は、より価値ある継続的な実践を目指して、地域から発信する現代舞踊公演を基盤として、交流と研鑽の質を高める地域実践モデルの構築を行うことを目的とした。具体的には、以下の研究Ⅰ～Ⅲを推進した。</p> <p>研究Ⅰ 2018年度の実践を振り返り問題点や課題を整理する。</p> <p>本実践も5年目を迎えて、社会人ダンサーの自己表現の場として他に例を見ない特色や独自性(多世代の出演者による合同公演・対話的鑑賞形式への挑戦など)を確立しつつある。今後は、作品の質の向上に繋がる取組みや次世代へ繋ぐ場としてのより高い次元の可能性を模索する必要があると考えられた。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績の概要</p>	<p>研究Ⅱ 現代舞踊公演と関連するダンスワークショップを計画し実施する。</p> <p>2019年11月17日(日)13時～15時、倉敷公民館大ホールにおいて、現代舞踊公演「DANCE ALIVE 2019」を開催した(昼1回公演)。出演者数は16名、観客数は150名であった。ワークショップは、前日の11月17日(土)14時30分～16時に同会場で開催した(講師は矢鳴千奈美氏)。受講者は20名であった。講師の提案する言葉から動きを作る手法で、絵本を題材に実践し、小学生やダンス初心者の方も各々の個性を發揮して動きを創ったり踊ったりすることができた。公演での上演作品は9本で、ソロ作品・デュオ作品・グループ作品等、形態やテーマも多様で挑戦的・実験的な作品を見せることができた。観客と交流するプログラム「トーク&インプロダンス」は、ホール環境を活かして、映像等も活用しながら趣向を変えて実施することができた。</p> <p>研究Ⅲ 2019年度の実践を検証し、地域との連携の在り方等について総括する。</p> <p>2019年度の取組みを総括すると、以下のような新しい取組みにより、出演者の意識向上や新しい客層の開拓、地域との連携について道筋をつけることに繋がったと考えられる。(1)試演会と交流型ワークショップの開催…岡山県立大学の大学生に公演前に創作途中の作品を鑑賞してもらい、意見交換を行った。本番に向けて作品完成への示唆を得ることができた。また、その後大学生と一緒に交流型ダンスワークショップで触れ合いを楽しむことができた。(2)高校ダンス部とのネットワーク作り…メンバーの一人が、岡山県高校ダンス協議会の講習会に招聘されて講師を担当し、現代舞踊の魅力を高校生ら次世代に伝えることができた。公演前であったため、広報も行うことができた。(3)倉敷公民館という新しい環境への挑戦…文化の香り高い倉敷美観地区で初めて公演を行うことができ、趣のあるホールにふさわしい表現を考えることができた。観光客や外国の方にも鑑賞いただくことができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>試演会の一場面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ワークショップの一場面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>作品「小部屋と海」の一場面</p> </div> </div>
	<p>成果資料目録</p>